

【テーマ】

「日本におけるシェアードサービスの現状と活用」

【発表概要】

昨今、グループの連結やコア事業を本格的に強化し、日本国内だけでなく海外に目を向ける企業が多く見受けられる。また、本社の業績を重視するマネジメントからグループの業績を重視するマネジメントへ移行していることも影響して、シェアードサービスセンター（SSC）という組織の支社や工場での経理や人事などの共通業務を社内の1つの新たな部門や独立した子会社をなどに集約するシェアードサービスを導入ないしは導入の準備を進めている企業が増加している。このシェアードサービスは、間接業務の改革のための手法であり、業務の集中化・見直し・標準化の3つの特徴によって肥大化した間接業務を効率的に運営し、業務に関してのコストを削減することを目的とするいうなればコストの削減と業務の効率化を求めた究極のアウトソーシングと呼ばれている。

しかしながら、海外のシェアードサービスの事例に対する調査や分析は進み、業務コストや効率性を上げ、大きな効果を上げている企業は多く見受けられるが、日本のシェアードサービスを先行導入した企業をみると、シェアードサービスを活用しきれずに、あまり効果を引き出せていない場合が多いと判明した。

なぜ海外で大きく効果を上げているシェアードサービスが日本の企業ではあまり効果を引き出すことが出来ていないのか、本レポートでその疑問を調査することにした。